

講座番号
13

最期まで自宅で暮らすための3か条 ～先進国オランダから学ぶ知恵と工夫～

概 要

デンマークをはじめとする欧州諸国では、1980年代から安易に施設入所に頼らず、「住み慣れた地域で最期まで(エイジング・イン・プレイス)」の政策を進めてきました。これを進めるには、「住まい」「24時間ケア」「地域でのつながり」が重要とされています。日本の介護保険でも自宅で住み続けるための「地域包括ケア」が進められ、地域でのつながりを形成する社会参加の意義が高まっています。オランダの先進的な姿と日本の介護保険を比較しながら、3つの条件にそって考えてみましょう。

テーマ

● 欧州諸国の住み慣れた地域に住み続けるための「住まい」「ケア」「地域」の3条件について

日 時

6月29日 | 土曜日(全1回) | 10:55～12:25(90分) | 予備日:7月6日(土)

受講料

一般:2,000円 | 在学生:1,000円

教材費

なし

定 員

20名

持ち物

筆記用具

講 師

松岡 洋子 東京家政大学人文学部教授(教育福祉学科)

「エイジング・イン・プレイス」という大きな時代のうねりを捉え、「住まい・ケア・地域」の視点から欧州と日本との比較研究をしている。担当:高齢者福祉論、ソーシャルワーク演習、社会福祉演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ他。著書に『老人ホームを超えて』(クリエイツかもがわ、2001)、『エイジング・イン・プレイス(地域居住)と高齢者住宅』(新評論、2011)、『オランダ・ミラクル』(新評論、2021)等がある。

